



## 目 次

院長あいさつ	1
病診連携施設紹介	2
看護部だより／催しもの「看護の日」	3
栄養相談室	4
医療安全管理室より	5
ア・ラ・カルト「くすりのはなし」	6
外来医師担当表／編集後記	7

発 行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会  
国立病院機構  
発行責任者：長 沼 博 文  
住 所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町11-35  
電 話：055-253-6131  
ファックス：055-251-5597  
ホームページ：<http://www.hosp.go.jp/~kofu/>  
Eメール：[kofu@kofu.hosp.go.jp](mailto:kofu@kofu.hosp.go.jp)



信玄公産湯の井戸  
大永元年（1521年）飯田河原の合戦の時、信虎夫人（大井夫人）が乱戦を避け、寺に留まり、寺内の井戸水（枠内写真）を産湯に使い、晴信（のちの信玄）を誕生させた地として言い伝えられているのがここ積翠寺なのです。

武田神社を右手に見ながら相川地区をさらに北上すると小高い要害山の麓に積翠寺があります。一見するとお寺ではなく普通の民家と見間違えそうではありますが、屋根にはしっかりと武田菱が輝いています。大永元年（1521年）福島兵庫乱入（いわゆる飯田ヶ原の合戦）の折、武田信虎夫人（大井夫人）が乱戦を避け、寺に留まり寺内の井戸水（枠内写真）を産湯に使い、晴信（のちの信玄）を誕生させた地として言い伝えられているのがここ積翠寺なのです。

（写真・文 福島診療録管理専門職）



## 独立行政法人国立病院機構 甲府病院の理念

### 1 基本姿勢

患者さまの目線に立ち、優しさと思いやりをもって病める人々が心を癒し、病を回復し健康を維持されるよう努めます

### 1 政策医療と地域医療

成育、重症心身障害を中心に当院で提供する全ての医療を政策医療として位置づけ、国民の健康と安全に寄与すると同時に、地域医療として山梨県民の皆様に還元し、県民に選ばれ、お役に立てるように日々努力します

### 1 患者様の権利

患者さまの平等で適切な医療を受ける権利、知る権利、選ぶ権利を守ります

### 1 研究と教育

全ての医療職種に貢献できる質の高い臨床研究と教育研修の推進に努めます

### 1 安定した経営

たゆまぬ意識改革を行い、独立行政法人として安定した経営を目指します

## 院長あいさつ

新年度の医療体制と  
医師不足問題

院長 長沼 博文



4月から19年度となり、当院の医療体制も少し変わります。すでにお知らせ致しましたように、当院では4月から結核病棟を休棟し、結核診療を休止することに致しました。休棟に至った背景には全国的な医師不足があります。長年にわたって旧西甲府病院の時代から結核診療を担当して来ましたが、やむを得ず休棟となりました。しかし、重症心身障害病棟と周産期医療センターは以前と同様に運営をして行きます。最近では分娩を担当する病院が減少しつつあり、当院の周産期医療センターの役割が重くなっています。問題は産婦人科医と小児科医の不足です。当院も産婦人科医が増えないと、これ以上分娩数を増やせないのが現状です。これに対処する一手段として、当院に周産期新生児専門医コースと周産期母体胎児専門医コースを4月から設けました。対象となるのはそれぞれ小児科専門医と産婦人科専門医で、それぞれ指導医が指導します。このコースは3年間ですが、特徴は途中で6ヶ月間国立成育医療センターでの研修を組み入れた事で、より幅広い経験を積めると思います。

このコースに応募してくれる医師がいれば当院としてもマンパワーが増えますし、コース終了後は他の医療機関に専門医として赴任するでしょうから、山梨県の周産期医療にわずかながらも貢献出来ると考えています。山梨県内のみならず、近隣の県からも応募があればと思っています。その他に、整形外科の後期臨床研修コースも設けました。このコースは、国立病院機構の研修制度の一環として設けました。3年間のコースで、途中で大学病院やナショナルセンターなどへも研修に行ける制度です。

もう一つの当院の役割は、救急医療です。現在、一般と小児の輪番制の救急医療を担当しています。ただ当院では内科医が減少していますので、一般救急の輪番制当番の回数を減らさせてもらいました。小児救急はこれまでどおりに担当します。一人でも医師を確保して地域医療への貢献を継続したいと考えておりますが、山梨県の医師不足の現状は厳しいものがあります。このような現状を是非御理解頂きたいと思えます。



# 病院連携施設紹介

## 「地域医療をめざして」

藤原整形外科院長 藤原 篤



藤原整形外科スタッフ 左端が藤原院長

2月の末に国立病院の長沼博文院長先生より突然お電話を頂きました。用件は、4月から広報誌をリニューアルするのだが、その中で病院の近くで開業している診療所（クリニック）の自己紹介をしてもらえないかとの話でありました。しかもトップバッターとの事でしたので非常に光栄に感じている次第です。

私が自治医科大学を卒業して故郷の山梨に医師として戻ってきたのが1978年です。その頃から当時の国立病院の整形外科の歴代の先生方とは、互いに「勤務医」同士として公私に渡って交流がありました。しかし、本当の意味での「国立甲府病院」との出会いは、1990年（平成2年）の4月に当院が開業した時からでしょうか？

当時、国立病院整形外科のドクターは一人しかいなかったのので、入院や手術を必要とする患者さんを紹介させていただいた際は、お手伝いのつもりで、毎週1~2回程病棟回診（当然、紹介した方だけですが…）に行ったものです。これこそ「地域

医療病診連携」の走りではなかったか！と思っております。

さて当院の特徴は「スポーツ医学」をモットーに、小さな子供から年配者の大人まで、特に小学生・中学生・高校生を中心に指導や診療を行なっていることです。更に国体（国民体育大会）をはじめとする各種のスポーツ競技に帯同したり、スポーツ現場での指導やドーピング検査の相談なども行なっています。

特にひざのケガや障害の患者さんは、遠方からも数多くみえられておるのが現状です。しかし、山梨県内では膝の靭帯再建術などの手術をお願いできる施設が少なかったのですが、「国立甲府病院」でも最近では症例数も増えておりおおいに期待しております。

今後ともよろしく願いいたします。

### 診療科目：

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

### 診療受付時間：

午前 8：30～11：30（リハビリは ～12：00）

午後 2：30～ 5：30（リハビリは ～ 5：45）

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	検査	○	▲	○	×

※ ▲の診察は4：30～5：30です。  
（検査のみの場合もあります）

### 休診日：

日曜・祝日・第1・3土曜日等

（詳しくは受付に問い合わせ下さい）

住所：〒400-0016 甲府市武田三丁目3-9

電話：（055）254-0511



# 看護部だより

## 母性専門看護師としての活動

高度周産期医療センター 母性専門看護師  
八巻 和子



「頭痛がひどいんですけど受診した方がいいでしょうか」と未熟児を出産されたお母様から質問がありました。医療を求めてくる方々の多くはこのように症状を主訴としていますが、詳しくお聞きし

てみると、どうにもならない苦しさや思い、生活面でも支障をきたしていること、いてもたってもいられない思いも浮上してきます。この方もお子さんが小さく生まれたことでの先々の不安やお子さんに対する罪責感、突然出産することになったことへの驚きなど、ストレスとなる要因も重なっていたようです。

妊娠、出産を経て、一人の女性が「母親」となり、成長していく時期は心身に大きな変化が起こるだけでなく、その女性を取り巻く家族や社会的役割にもダイナミックな変化が起こります。そういった時期は心身のバランスを崩しやすい時期でもあります。症状に対処することを含め、心身の変化を生活全体を含めトータルにとらえ、ケアを提供するのが、母性専門看護師としての役割と考えています。



手洗いの実際

## 看護の日

副看護部長  
國見 恵子



21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。

こうした心を、老若男女を問わず誰もが育むきっかけと

なるよう、旧厚生省により、「看護の日」が1990年に制定されました。毎年5月12日は「看護の日」。そして、12日を含む週の日曜日から土曜日までが「看護週間」です。気軽に看護に触れていただける催しが各地で開催されます。

国立病院機構甲府病院でもこの時期に合わせ、看護にふれあっていただく催し物を企画しています。日程、内容は後日掲示板などでご案内いたします。

昨年の「看護の日」催し物の様子



栄養相談



骨密度測定

# 栄養相談室

## 栄養管理室部門紹介

栄養管理室長 原 義隆

私たち栄養管理室スタッフは、管理栄養士3名、栄養士1名、調理師7名(内非常勤2名)、契約係事務員1名の計12名及び、業務委託職員20名(洗浄業務含む)で構成され、入院患者様の食事面における療養環境向上のため、栄養計画・栄養相談を含め、一同日々努力しております。外来においても、乳児健診時の食事相談や各種個人栄養食事指導を行っております。また、毎月開催される外来糖尿病教室では、医師をはじめ、薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・看護師・栄養士がテーマ毎に疾病への理解とコントロールについての情報を提供しております。今回は、そのテーマの一つとして、2月23日(金)に開催されました「第8回外来糖尿病教室食事会」の内容について、お話ししたいと思います。当日は、小雨の降るあいにくの天候でしたが、22名(ご家族を含む)の参加があり、副院長の挨拶で開会しました。今回のテーマは、「バイキング形式」として、お好みの料理を選んで頂くことで



主食もご自身で計量



調理師による料理説明



盛り付け例

した。ご用意した料理は、(主菜)①豚ヒレピカタ ②大鰯ふき味噌焼き ③鮭きのこホイル焼き(小鉢)①肉じゃが煮 ②若竹煮 ③かぶ蒸しあんかけ(酢の物)①うど酢味噌かけ ②柿なます ③長芋梅肉ソース(浸し)①菜の花辛子和え ②水菜浸し ③春菊胡麻和え(フルーツ)①いちご ②りんご ③オレンジです。調理師が献立を考え、栄養士が調味料・材料など調整するという、栄養管理室一丸となって出来た内容です。また、患者様からのご要望もあり、作り方の資料も加え、それを調理師

が患者様の前で説明したことも、今回の新たな試みでした。アンケートの結果は、76%の方が、「選べて良かった」と回答し、90%の方が「また是非参加したい」との回答で、好評のままに、黒澤医長のお話を頂き、閉会致しました。近況では、糖尿病患者の増加はもとより、高齢化と、一人暮らしという環境も見受けられます。そのような方々に、見た目での感覚や目安量・野菜料理を付加する工夫などの手助けが出来ればと考えております。



どれにしましょうか?

# 医療安全管理室より

## 当院における 医療安全管理の取り組み

医療安全管理室長（副院長） 久富 幹則



左：久富医療安全管理室長 右：稲垣医療安全管理係長

毎日のように新聞やテレビで報道されている医療事故、今ほど病院に安全と安心が強く求められる時代はないように思います。そのため当院では医療の質の確保と向上とともに、患者様の安全と安心を保証するために安全管理に努めており、つぎのような安全対策に取り組んでおります。

### 1. 医療安全管理委員会

院内での医療安全管理対策を総合的に実施するために、医療安全管理委員会を設置して月に一回開催しています。

委員会ではインシデント・アクシデント報告を集積分析し、その発生原因や再発防止についての対応策を検討いたします。また医療安全管理マニュアルを作成し、それぞれの部署での医療安全に努めております。

構成委員は医師、看護師はもとより薬剤師、技師、栄養士、事務系職員などの院内の各部署からの職員で構成されております。

### 2. リスクマネジメント小委員会

医療事故に結びつくヒヤリ・ハット事例を職員全員に自発的に報告していただき“人はエラーを

犯すもの”との前提にたって、月一回それぞれの事例について検討や対策を講じております。委員は各部署から選出された現場の職員により構成されており、毎月活発な討論をしております。

また院内における医療安全のための研修会を定期的に企画し、職員の安全への意識の向上と自己啓発に努めております。

以上、当院における医療安全管理の取り組みを紹介させていただきました。今後とも更に充実していきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

しかしこれで十分でしょうか？もちろんこれらの委員会やマニュアル作成は大切ですが、これだけでは十分な安全と安心は守れないと思います。医療の安全と安心は、個々の職員のプロフェッショナルとしての職業意識と専門職としての知識の向上が大切なことと思います。そして何よりも大事な事は「いつもと違う何か変」と思える感性を一人一人がもつ事ではないでしょうか？

新しい年19年度が始まりますが、新採用者を迎えて又、新たな気持ちでそれぞれの立場から安全と安心の医療を患者様に提供できる病院を更に目指し前進していきたいと思っております。



## アラカルト

## くすりののはなし

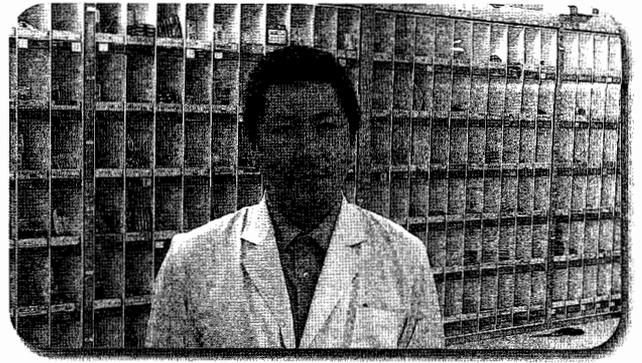
調剤主任 荒 義昭

## 花粉症

今年はスギ花粉の飛散量は例年より少ないという予想だそうですが、みなさんはいかがでしょう？

日本では、1960年代にはじめて花粉症が報告されて以来、現在では人口の約20%が花粉症であると言われております。もっとも多い花粉症は、地域差はありますが春先にみられるスギ花粉症で、次いでヒノキやブタクサなど、様々な花粉症が報告されています。

その症状は、くしゃみ・鼻水・鼻づまり、目のかゆみ・なみだ・充血などのアレルギー症状で、その他、喉のかゆみ、皮膚のかゆみ、下痢、熱っぽい感じなどの症状が現れることもあります。



**抗ヒスタミン薬**：効き始めが10～20分と短く、急に症状が強くなったときなどに使用します。症状が出てしまったからの「導入療法」や、「維持療法」中に症状が悪化した時などに用います。眠気が強く出ることがありますので、車の運転などには注意してください。



**局所ステロイド薬（点鼻薬）**：鼻づまりの症状が強い時に使用します。使用する前に鼻をかんで、できるだけ鼻の通りをよくします。片方の鼻の穴をふさぎ、もう一方の鼻の穴に容器の先を入れ、しっかりと噴霧して下さい。もう一方の鼻にも同じようにします。薬を鼻に入れた後は、薬を鼻の奥まで行きわたらせるために、数秒間は上を向いて、鼻からゆっくり呼吸して下さい。

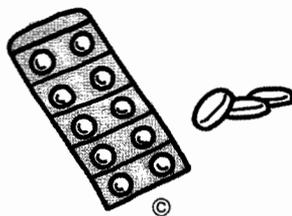
## 花粉症の治療

花粉症の治療には、花粉が飛び始める2週間くらい前から薬を飲み始める「初期療法」、症状が強くなってから始める「導入療法」、そして初期療法や導入療法で症状がやわらいだあと、その状態を保つための「維持療法」があります。

いずれも抗アレルギー薬の内服や局所ステロイド薬の点鼻などの薬物療法が治療の中心になります。

## 主な治療薬

**抗アレルギー薬**：効き始めまで1～2日ないし2週間程度かかりますが、副作用の眠気は抗ヒスタミン薬に比べたら弱いといわれます。「初期療法」では花粉の飛び始める2週間くらい前から飲み始めると、症状を和らげることができます。



## その他の花粉対策

- マスク、メガネ：マスクやメガネの使用は、鼻や目に入る花粉の量を減らす効果があります。
- うがい、洗顔：うがいや洗顔は喉に流れた花粉や顔に付着した花粉を除去するのに効果があります。外出から帰ってきたら、うがいと洗顔、手洗いをしましょう。



## 参考文献

- 1) 高久史麿ほか：治療薬マニュアル，2007年版，医学書院，2007
- 2) 花粉症ナビ -協和発酵ホームページ- <http://www.kyowa.co.jp/kafun/measure/relief/>，2007/02/09
- 3) Wikipedia：<http://ja.wikipedia.org/wiki/花粉症>，2007/02/09

# 外 来 医 師 担 当 表

平成19年4月2日現在

		月	火	水	木	金
内 科	1	渡 邊	川 口	渡 邊	渡 邊	渡 邊
	2	黒 澤	黒 澤	黒 澤	川 口	黒 澤
	3		尾 畑		中 尾	
	4					
脳 外 科	5	長 沼	長 沼		長 沼	長 沼
特殊外来 午後3時～			渡 邊			
精 神 科			平野・塩江			
消 化 器 科		稲 岡	稲 岡	稲 岡		
小 児 科	1	久 富	稲 見	久 富	久 富	稲 見
	2	加 藤	田 口	斉 藤	加 藤	田 口
	3	中 根	神 谷	中 村	中 根	野 口
神経外来(午後)	3	中 村	野 口	神 谷		中 根
摂食外来(午後)					第 <sup>2</sup> 週 神 谷 第 <sup>3</sup> 週 小 野	
外 科		鈴 木	角 田	角 田	鈴 木	角 田
整 形 外 科	1	萩 野	若 生	若 生	萩 野	萩 野
	2	若 生	落 合	落 合	落 合	落 合
泌 尿 器 科		相 川	川 口	相 川	相 川	相 川
産 婦 人 科	1	深 田	深 田	高 木	深 田	深 田
	2	伊 東	高 木	伊 東	伊 東	高 木
	3	隔週交替 午前中	山梨大学医学部 付属病院より			
眼 科			戸 野 塚	関 根		
耳 鼻 咽 喉 科					矢 崎	

- 受付時間 初診/午前8時30分～午前11時00分 再診/午前8時20分～午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)  
 ※乳児健診/毎週 火・木曜日(完全予約制) ※人間ドック/毎週 火 脳ドック/毎週 火・金  
 ※予防接種(小児科)/毎週 水曜日(完全予約制) ※毎月第4金曜日/黒澤医師 糖尿病教室

## 編 集 後 記

この冬は、記録的な暖かさとなりました。  
 新たな出会いのある春を迎え「てんじん」もリニュー-  
 ールいたしました。  
 今後も関係各位・地域の方々に変わらぬご愛顧をよ-  
 ろしくお願い致します。(編集委員 羽柴竜也)

## 医療連携室直通電話

TEL 055-240-6223  
 FAX 055-240-6225